活動発表

地域防災における建築士の役割 DIGの手法を用いて

安谷潔美［鳥取県建築士会女性部長・理事、カノン設計室 代表］

継続してきた防災関連活動

平成12年10月6日13時30分、鳥取県西部で地震が発生した。地震の規模はマグニチュード7.3。この地震により、鳥取県では震度6強の揺れを記録。これは阪神淡路大震災と同じ規模か、それ以上の地震であった。その一方で、震源地が山間部で人口が少なく、地震発生時刻が日中で被害は小さかったこともあり、世間からは忘れ去られる震災となり、私たちでさえも同じであったように思う。

しかし私たち青年女性合同委員会は、「このままで良いのだろうか、何か私たちにできることはないか」と考え、防災の基本を学ぶため、県防災局危機管理課の方を講師に勉強会を実施した。そこで、いかに日頃からの備えや、消防団、自治会による防災活動が重要か、それらが連携することが大切かということを学んだ。また、DIGの手法も学び、地域へと活動の場を広げていった。

DIG【Disaster（災害）Imagination（想像力）Game（ゲーム）】の意味

地図を用意し、マーカーを使って、広い道は茶色、狭い道はピンク色、川や水路は青色、公園は緑色といったように色塗りし、避難所や独居老人宅などをマーキングしていく。そうすると、上空からまちを見下ろすイメージとなり、まちの構造が一目で分かるようになる。

そして災害という観点から、まちの強い点、弱い点について話し合う。次に、災害が実際に起きたら困る時間、震度を具体的に提示し、地震発生後どうするのか、日頃からの備え、などをまちの長所短所を意識しながら考えてもらう。DIGにより、災害時の対応や備えを想像することができ、防災を意識するきっかけづくりとなったと思う。

活動を続けている中、未曽有の東日本大震災が発生。津波や原発による被害の恐ろしさに「わたしたちにできることは何だろうか」と改めて考えることとなった。

松崎自主防災組織とのDIG

東日本大震災の約半年後の平成23年11月、松崎自主防災会委員より、DIGの講習会の依頼があった。防災関係の人からの依頼は初めてのことで、東北地方の人に限らず人々の心に大きな変化をもたらしたのだと感じた。

松崎地区は鳥取県中部で東郷湖畔に面しており、海抜0mの地区もあり、全体的に地盤が低い地域である。津波の想定も大きく変更された地域である。私たちはDIGで学ぶテーマの中に、津波が襲来したと付け加えた。その時出た意見の中には、

- 高いところが災害危険区域になっていて逃げられない。
- あの辺は、独居老人がたくさん住んでいる。誰が助けに行くのか。
- 高台まで遠すぎて、走って行くことができない。
- 車で移動しないといけない。

このように困惑の意見が多かったのだが、対策を講じる一助となったと思う。また、改めて自分たちの地域の問題点についても再認識ができ、今後の課題が見えてきたと感じた。

今後の展開

私たちにできることは何か、と始めた青年女性合同委員会の防災活動であるが、昨年の中四国ブロック大会で報告したことがきっかけとなり、高知建築士会幡多支部からDIGの依頼があった。そこは高知県の西の端、四万十川下流の地域で、鳥取県よりもさらに震災に対する危機感を強く感じておられた。私たちとDIGを学ばれた後も、地元で何度もDIGを実践され、四万十市全域に広がっていった。

震災は忘れた頃にやってくる。DIGの手法はその一部でしかないが、一人ひとりが防災意識を高くもち、学び、災害に負けない町、災害に負けない人になるよう期待する。また、東北の一日も早い復興を願っている。

●鳥取県西武地震（2000年10月6日）の被害状況

●鳥取県湯梨浜町松崎地区